

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版：様式】

津山市立清泉小学校

1 津山市重点取組

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル)授業改善と家庭学習をつなぐつまずき解消	学校・家庭	①授業内容の理解を促すために授業改善を行い、小テスト等で自力解決できるようにする。 ②課題となっている分野のつまずきの解消に向けての取り組みを定期的に変換する。 ③授業内容と宿題を関連づける。家庭学習のつまずきを授業や補充学習(算数放課後学習を含む)の中で解説したり、課題を解かせたりする。	年度末	・授業の中で自力解決の時間を確保したり、話し合い活動において考えを深めたりできるようにする。また、めあてに對するまとめや振り返りを行い、学力の定着を図る。 ・つまずきの傾向を全職員で分析し、各学年で何に取り組むか共通理解を図る。定期的に状況を報告、確認をする。 ・児童朝礼の話を条件をつけてノートに書く経験を積ませる。 ・週末に類似問題や課題としている問題等を出し、分からない所は家の人について問題解決するなど、家庭も巻き込んでいく。	・授業の内容がわかると回答する児童が80%以上。 ・取り組むことに決めた分野の単元のテストの平均が80%以上。 ・条件に合わせた文章が書ける児童が80%以上。
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実(児童会・生徒会や家庭等)	家庭・学校	・家庭学習や読書にきちんと取り組むことができる。 ・スマホの使用するルールを家庭できちんと決める。 ・情報モラルの指導やスマホのトラブルについての学習を行う。	年度末	・PTA努力目標(家庭学習のめやすの時間)にそって学級懇談時に保護者に状況を専らたり、協力を求める。 ・夏と冬の年2回「ふれあい読書」という親子読書の取り組みの中で、意識付けを行う。 ・学級懇談やPTA総会、チャレンジハッピーデーなどを利用して話題として取り上げ、意識付けを行う。	・家庭学習に取り組む児童が95%以上。 ・スマホの使用するルールを守る児童が95%以上。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語の「書くこと」(全国+15.2%)、「読むこと」(全国+6.2%)、「言語文化・特質」(全国+4.7%)となっており、基礎的な力がついていた。 ・国語の質問の工夫を読み取って選択することが難しかった。1文の中に内容が2つ書いてあり、最後まで読むことができていない。(全国-40.1%) ・算数の記述する問題では、すべての条件を満たすように最後まで書くことが難しかった。また、たくさんの情報から必要なものを選んだり、2つのグラフから1あたり量を求めたりすることが難しかった。(全国-33.9%) <p>県</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書くことにおいて字数制限や条件に合わせて書くことができていない。また、文章の構成を考えるなどの書く技術も身につけていない。 ・資料の見方や提示された資料から必要な条件を見つけれない。また、条件に合わせて書くことが難しかった。 ・生活に結びつけて考える問題が弱く、地図や道のりという言葉に惑わされてしまい、条件や情報を読み取ることができなかった。 ・基礎的な問題は、国語、算数共に全国に比べても3~4%以上上回っており力を付けてきている。 	<p>【学習状況調査の結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感の高い児童の割合は27.3%で、依然として全国38.8%より低い。 ・図書館の利用率は高いが、平日30分以上読書をする児童が50%程であり、全体的に低い。 ・話し合い活動を通して自分の考えを深める、広げることができると感じている児童の割合9.1%と低い。また、自分たちで課題解決に向けて取り組んでいるという意識も低い。 ・家庭学習では、平日PTAで決めている時間1時間以上2時間未満が46%と多いが、宿題が中心で、予習、復習はあまりしていない。 ・テレビやゲーム、スマホの使用時間は、1時間から2時間までという児童が多いが、2年生以上の学年では2時間以上という児童が数名ずついる。 ・地域とのつながりが深く、地域の行事には進んで参加している児童が多い。
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習の時間に漢字や算数の学習の復習等を繰り返し取り組むことで基礎基本の定着につながった。 ・全校での「読書週間」の取り組みや保護者ともに行う「ふれあい読書」の取り組み等により長文でも読むことができるようになってきた。 ・授業の始まりや宿題等で問題データベースを活用してきたことで基礎的な力がついていた。 ・朝の学習の時間に各学年に応じた「読解問題ドリル」に取り組んだことで、文章問題に慣れたことで、問題に取り組もうとする姿勢が見られるようになった。 ・校内研修等で児童の学習状況を知り、授業作りの研究を進めてきたことが成果につながってきた。 ・春休みには、全学年復習問題のワークに取り組ませることで次年度の学習へつなげることができ、力が付いてきた。 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語の「書くこと」において字数制限や条件に合わせて最後まできちんと記述する方が弱い。(2段落構成で文を書くなど)。 ・算数の記述問題において条件に合わせて文を書いたり、資料の中から必要な条件を見つけて解きに導いていったりする力が弱い。 ・問題文が長く、何を問われているのか設問の内容をきちんと読み取る力をつけることが課題である。 ・低学年で新しい学習内容を数時間で取り扱ったものの定着が弱かった。

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
現学年までに学習する四則混合計算、空位のある計算、波及的繰り下りの計算や漢字の読み書きができる。	年度末	全学年、平均正答率90%以上。	・低学年では、基礎・基本の反復練習教材、問題データベースを活用し、朝の学習や授業の中で復習に取り組む。 ・高学年の補充学習では、一人一人の実態に合わせて問題データベースの基礎から応用まで習熟を図ることができるようにする。					
「書く」力の向上	年度末	「書く」活動の充実を図り、制限された字数で自分の考えを書いたり、授業のまとめや振り返りを書いたりすることができる。	・朝の集いで聞いた話をノートにまとめたり、自分の考えを書いたりする。 ・授業のまとめや振り返りを書くときには、キーワードや字数制限を等、「書くこと」を意識した取り組みをする。					
家庭生活習慣の改善 家庭学習習慣の定着・充実	年度末	・低学年90分、中学年45分、高学年60分以上家庭学習をすると回答する児童が90%以上になる。土・日の家庭学習の時間も平日同様学習できるようにする。 ・スマホやテレビなどメディアにふれる時間が平日2時間未満の児童が90%以上になる。	・条件設定をした読書や記述する問題等を週末の課題として取り組ませ、家庭学習の充実を図る。 ・家庭学習の充実のために、授業内容に沿った課題を家庭学習としたり、親子読書の取り組みをPTAと共に行ったりする。 ・家庭に呼びかけ、メディアコントロールの取り組みを行う。					

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」「C:目標をある程度達成できた(60%以上70%未満)」「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上60%未満)」「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校ブロックで期間を合わせて、ノーメディアチャレンジに取り組む。 ・中学校ブロックで、スマホ・ネット問題についての児童・生徒主体の活動を推進するとともに、保護者向け講演会等を実施する。 ・中学校ブロックで「チャーム合同」「掃除」「あいさつ」「無言入場」を重点として取り組む。 ・小中間による授業公開、教科研修、情報交換を行う。 ・中学校から6年生への出前授業の取り組みを行う。

保護者・地域へ理解・協力を求めること
<ul style="list-style-type: none"> ・通信、懇談、学校評議員会などで子ども達の様子を伝え、学校としてどんな子どもに育てたいのか等を伝えていく。 ・チャレンジハッピーデーへの取り組みにおいてゲームやテレビ等の時間の見直しを呼びかけたり、親子でふれあったりする時間を作る。 ・母親委員会と共に、早起き、朝ご飯の呼びかけをしたり、「教育を語る会」で子育てに関する講演会を行ったりすることで家庭・地域との連携を深める。 ・「家庭学習のすすめ」や「自主学習の手引き」を家庭に配布し、家庭での学習時間の十分な確保をめざす。